

## 1.11 麻機遊水地の自然環境

麻機遊水地の自然環境の特徴を以下に示す。

### 1.11.1 植物

これまでに麻機遊水地で確認された植物は約 600 種であるが、そのほとんどは草本類（木本類はヤナギ類をはじめ 20 種程度）である。

これらの植物の中には、治水工事により田畑が掘り起こされ、土中に埋もれていた埋土種子から蘇った湿生植物も見られる。



図 1-41.ミズアオイ  
出典：麻機遊水地に蘇る生きものたち



図 1-42.タコノアシ  
出典：麻機遊水地に蘇る生きものたち

この狭い地域で約 600 種の植物が確認されるということは、種の多様性が高くこの約 600 種の中には、県下の他の地域ではあまり見られなくなったミズウラビ、サクラタデなどの珍しい植物や、国や県が絶滅危惧種に指定したミズアオイ（図1-41、県版 RDB:VU）、タコノアシ（図1-42、県版 RDB:NT）、ミズナラ、オオアブノメ（ともに県版 RDB:VU）などやノニガナ（県版 RDB:N-II）などの部会注目種が確認されている。

表 1-4.総出現種

工区別	科	種	調査時期
第 1 工区	63	228	平成 16 年 9 月
第 3・4 工区	112	599	～平成 15 年 10 月現在

※第 1 工区と第 3・4 工区の確認種については、同じ種のものも含む

表 1-5.特性別の出現状況

特性別	第 1 工区	第 3・4 工区
	種数	種数
水生・湿生植物	90 種(39%)	188 種(31%)
陸生植物	138 種(61%)	411 種(69%)
在来種	173 種(76%)	432 種(72%)
外来種	55 種(24%)	167 種(28%)

※（ ）は出現種全体に占める割合

参考資料：平成 16 年度自然環境調査報告書（静岡土木事務所）

※部会注目種：各専門部会において、学術上・自然保護上注目すべきと判断された種

表 1-6.特定種一覧表（植物）

科名	種名	カテゴリー		工区名			生育基盤			減少の主要因
		静岡県	環境省	1工区	3工区	4工区	池沼	田床	畦	
シソ科	ミズネコノオ	EN	VU		○		○	○		湿地の埋め立てや水田の除草剤散布などが、減少の主要因である。
タデ科	コギシギシ	EN	VU	○				○		土地造成、草地開発、草地の管理放棄による遷移の進行などで生育地が失われている。
ヒルムシロ科	ツツイトモ	VU	CR		○		○			過去の資料がないが生育地の消失と水質の悪化による減少が指摘される。
ゴマノハグサ科	スズメハコベ	VU	EN		○		○			生息地の湿地や池沼の開発、水田での除草剤使用や乾田化、耕地整理によって減少した。
ゴマノハグサ科	オオアブノメ	VU	VU	○	○			○		生育地の土地の造成と農業汚染や植生遷移の影響を受けている。
キク科	ホソバニガナ	VU	EN	○	○	○			○	生育地の湿地の減少と植生遷移が脅威である。
ミズニラ科	ミズニラ	VU	VU		○		○	○		池沼・湿地の開発、ため池の改修、水田の耕地整備、農業による影響などが減少の要因である。
タデ科	ヌカボタデ	VU	VU		○				○	生育地の湿地や沼沢地の埋立て、水田での除草剤散布が減少の原因である。
スイレン科	オニバス	VU	VU			○	○			池沼の開発などで多くの生産地が失われた。釣りの邪魔になることで除去され絶滅した池もある。
アカウキクサ科	アカウキクサ	VU	VU		○	○	○			農業による影響や水田の圃場整備などが原因で著しく減少している。
ミツガシワ科	アサザ	VU	VU			○	○			池沼開発、圃場採取が減少の原因で著しく減少している。
ミズアオイ科	ミズアオイ	VU	VU	○	○	○	○	○		静岡市の麻機遊水地では、土地を攪乱したときに大量に発生した。植生の遷移とともにほとんど姿を消した。
カヤツリグサ科	コツブヌマハリイ	VU	VU		○				○	池沼の開発、湿地の整備、管理放棄による遷移の進行が減少につながる。
タデ科	ヤナギヌカボ	NT	VU	○	○				○	池沼などの開発や植生の遷移で、個体数は減少している。
ユキノシタ科	タコノアシ	NT	VU	○	○	○			○	河川や池沼の開発の影響を受けている。
ミソハギ科	ミズマツバ	NT	VU	○		○	○	○		各地に生育するが産地の消失で減少してきている。
シソ科	ミソコウジュ	NT	NT	○	○	○			○	農業や植生遷移の影響を受けている。
アカバナ科	ウスゲチョウジタデ	NT	NT	○	○	○			○	産地の消失で減少してきている。
ミクリ科	ミクリ	NT	NT		○	○	○			河川改修で減少している。
キク科	ノニガナ	N-Ⅲ	-		○	○			○	
ベンケイソウ科	アズマツメクサ	N-Ⅲ	-	○				○		湿地の減少が生育に影響を与えている。
ゴマノハグサ科	カワヂシャ	-	NT		○	○			○	
シャジクモ科	シャジクモ	-	CR+EN	○	○				○	

CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類、NT: 準絶滅危惧  
 CR: 絶滅危惧ⅠA類、N-Ⅲ: 部会注目種  
 EN: 絶滅危惧ⅠB類  
 VU: 絶滅危惧Ⅱ類

※減少の主要因は静岡県版レッドデータブックより引用

※オニバス、アサザについては、他地域から持ち込んだ植物。

表 1-7.珍しい植物一覧表

科名	種名	工区名			生育基盤		
		1工区	3工区	4工区	池沼	田床	畦
ミズウラボシ科	ミズウラボシ	○		○		○	
タデ科	サクラタデ		○			○	
ミソハコベ科	ミソハコベ		○	○	○		
ウリ科	ゴキツル	○	○	○		○	
アカネ科	ホソバノヨツバムグラ		○	○		○	
シソ科	ヒメサルダヒコ		○			○	
ゴマノハグサ科	シソクサ		○			○	
ゴマノハグサ科	キクモ		○		○		
キツネノマゴ科	オギノツメ		○			○	
ヒルムシロ科	ヒルムシロ		○		○		
イバラモ科	オオトリゲモ		○		○		
ホシクサ科	ヒロハイヌノヒゲ		○			○	
カヤツリグサ科	ミズガヤツリ		○	○		○	
カヤツリグサ科	カンガレイ	○	○	○	○		
カヤツリグサ科	サンカクイ	○	○	○		○	
ゴマノハグサ科	アブノメ		○	○		○	
ヤナギ科	アカメヤナギ	○	○	○		○	○
ヤナギ科	コゴメヤナギ	○	○	○		○	○
オモダカ科	ウリカワ	○				○	
イグサ科	ヒメコウガイゼキショウ	○				○	
アワゴケ科	ミズハコベ	○				○	
キキョウ科	アゼムシロ	○					○
サトイモ科	ショウブ	○			○	○	
ガマ科	コガマ	○			○	○	
ガマ科	ガマ	○			○	○	
キツネノマゴ科	オギノツメ	○			○	○	

参考：平成 15 年自然環境モニタリング調査報告書、平成 17 年第 1 工区植生調査報告書  
 （静岡土木事務所）

※「珍しい植物」とは  
 植物の観察活動を通して、静岡県下の他の地域ではあまり見られなくなった植物。遊水地に  
 生育する植物のうち保全していきたい植物。

### 1.11.2 哺乳類

麻機遊水地では、タヌキ、キツネ、イタチ、ノウサギ、コウベモグラ、ジネズミ、アカネズミなどが確認されている。注目すべき哺乳類としては、静岡県版レッドデータブックの準絶滅危惧種に指定されているカヤネズミ（図 1-43、県版 RDB:NT）が挙げられる。



図 1-43.カヤネズミ  
写真：伴野正志氏



図 1-44.カヤネズミの巣

### 1.11.3 鳥類

麻機遊水地では、治水整備により開放水面が確保され多くの野鳥が集まるようになった。昭和58年から平成16年までに16目43科201種の野鳥が記録され、これは日本全域で記録されている野鳥(約600種)の約1/3にあたる。静岡県内では約380種が記録されており、そのうちの半分以上が麻機遊水地で確認されている。一地域で200種を超える野鳥が記録された場所は、静岡県内では麻機遊水地と富士川の河口域の2箇所のみである。

これまで多くの野鳥が麻機遊水地で記録されてきたが、常に200種以上確認できる訳ではなく、年間を通して確認できるのは約100種程度である。麻機遊水地で記録された野鳥は、カモ(図1-45)、サギ類の水辺の鳥が90種(45%)、スズメ、カラスなどの山野の野鳥が111種(55%)であり、年中見ることのできる野鳥から季節によって移動する渡り鳥まで、多くの野鳥をこの遊水地で確認できる。麻機遊水地で年中見られる代表的な野鳥は、サギ類、ケリ(図1-46)、カイツブリ、バン、カワセミなどである。春から夏に確認さ

れる野鳥は、夏鳥のオオヨシキリやヨシゴイ(県版RDB:EN)、秋は渡りの途中のノビタキ(県版RDB:N-II)やシギ類、冬は北から渡って来たカモ類である。

また、珍しい野鳥も確認されており、平成8年冬にはコウノトリ(環境省RDB:CR)が越冬し、日本中から多くのバードウォッチャーが麻機遊水地を訪れた。



図1-45.カモの群れ  
出典：遊水地の自然シリーズ1 野鳥



図1-46.ケリ  
出典：遊水地の自然シリーズ1 野鳥

表1-8.住み分け分類表

区分	水辺・干潟・湿地		草原の鳥 (田畑を含む)	疎林の鳥	上空通過
	水辺の鳥	干潟・湿地の鳥 (休耕田)			
春から夏 (夏鳥)	・オオヨシキリ ・ヨシゴイ ・コササギ ・アマサギ ・ツバメ	・ヒクイナ ・コチドリ ・ササゴイ ・チュウサギ ・アマサギ	・アマサギ ・チュウサギ	・コゲラ ・アオバズク ・アマサギ	・ツバメ ・コシアカツバメ ・イワツバメ
秋から冬 (冬鳥)	・マガン ・コハクチョウ ・マガモ ・ヒドリガモなどのカモ類 ・カワウ ・コウノトリ ・オオジュリン ・ベニマシコ ・カンムリカイツブリ	・コミミズク ・タゲリ ・タシギ ・クサシギ ・クイナ ・ハマシギ	・コミミズク ・チョウゲンボウ ・ハイロチュウヒ ・アオジ ・カシラダカ ・ホオジロ ・トラフズク ・マガン ・タゲリ ・タヒバリ ・ジョウビタキ ・ツグミ	・トラフズク ・オオタカ ・アリスイ ・アカケラ ・ジョウビタキ ・アカハラ ・ヤマガラ ・イカル ・シメ ・ハイタカ ・ノスリ	・オオワシ ・ミサゴ ・ハヤブサ ・ユリカモメ ・イヌワシ ・ハイタカ
春と秋 (旅鳥)	・ツリスガラ ・レンカク ・シマアジ	・アオアシシギ ・キアシシギ ・ウスラシギ ・セイタカシギ ・イカルチドリなどのシギやチドリ類	・ムナグロ ・フクロウ ・ノビタキ	・カウコウ ・ツツドリ ・ホトギス ・フクロウ	・アマツバメ ・ジョウドウツバメ ・サシバ
1年間 (留鳥)	・アオサギ ・ダイサギ ・カワセミ ・カルガモ ・タマシギ ・カイツブリ ・コサギ ・イソシギ ・キセキレイ ・セグロセキレイ	・タマシギ ・バン ・ケリ ・コサギ ・アオサギ ・イソシギ	・ケリ ・セッカ ・スズメ ・ホオジロ ・キジ ・アオサギ ・ヒバリ ・ハクセキレイ ・モズ ・ムクドリ	・キジ ・アオゲラ ・ヒヨドリ ・モズ ・ウグイス ・シジュウカラ ・メジロ ・カワラヒワ	・ヒメアマツバメ ・トビ ・ノスリ

表 1-9.特定種一覧表（野鳥）

科名	種名	カテゴリー	
		静岡県	環境省
タカ科	イヌワシ	CR	EN
ウグイス科	オオセッカ	EN	EN
カモメ科	コアジサシ	EN	VU
カワセミ科	アカショウビン	EN	-
クイナ科	ヒクイナ	EN	VU
サギ科	サンカノゴイ	EN	EN
サギ科	ヨシゴイ	EN	NT
シギ科	ツルシギ	EN	-
タカ科	チュウヒ	EN	EN
フクロウ科	コミミズク	EN	-
モズ科	アカモズ	EN	EN
カモ科	トモエガモ	VU	VU
カワセミ科	ヤマセミ	VU	-
キジ科	ウズラ	VU	NT
シギ科	ウズラシギ	VU	-
シギ科	オグロシギ	VU	-
シギ科	オジロトウネン	VU	-
シギ科	コアオアシシギ	VU	-
シギ科	ダイシャクシギ	VU	-
シギ科	タカブシギ	VU	-
シギ科	ヒバリシギ	VU	-
タカ科	オオタカ	VU	NT
タカ科	クマタカ	VU	EN
タカ科	サシバ	VU	VU
タカ科	ハチクマ	VU	NT
タカ科	ハイタカ	VU	NT
タマシギ科	タマシギ	VU	-
チドリ科	シロチドリ	VU	-
ハヤブサ科	ハヤブサ	VU	VU
ヒタキ科	コサメビタキ	VU	-
フクロウ科	アオバズク	VU	-
ホオジロ科	コジュリン	VU	VU
ヨタカ科	ヨタカ	VU	VU
カササギヒタキ科	サンコウチョウ	NT	-
カモ科	ミコアイサ	NT	-
キツツキ科	アリスイ	NT	-
クイナ科	クイナ	NT	-
セイタカシギ科	セイタカシギ	NT	VU
チドリ科	イカルチドリ	NT	-
チドリ科	タゲリ	NT	-
ツバメ科	コシアカツバメ	NT	-
フクロウ科	フクロウ	NT	-
ホオジロ科	ミヤマホオジロ	NT	-
シギ科	オオジシギ	N-II	NT
タカ科	オオワシ	N-II	VU
タカ科	ハイロチュウヒ	N-II	-
ツグミ科	ノビタキ	N-II	-
タカ科	ミサゴ	N-III	NT
ハヤブサ科	コチョウゲンボウ	N-III	-
シギ科	ヤマシギ	DD	-
フクロウ科	トラフズク	DD	-
フクロウ科	オオコノハズク	DD	-
コウノトリ科	コウノトリ	-	CR
シギ科	コシヤクシギ	-	EN
サギ科	オオヨシゴイ	-	EN
カモ科	コクガン	-	VU
クイナ科	シマクイナ	-	EN
ツバメチドリ科	ツバメチドリ	-	VU
カモ科	マガン	-	NT
サギ科	チュウサギ	-	NT
ホオジロ科	ノジコ	-	NT

CR: 絶滅危惧 I A類

NT: 準絶滅危惧

EN: 絶滅危惧 I B類

DD: 情報不足

VU: 絶滅危惧 II 類



#### 1.11.4 両生類・爬虫類

両生類・爬虫類は、これまでに麻機遊水地でレッドデータブックに記載されている貴重種は確認されていない。

麻機遊水地内に生息するカエル類は、又マガエルとウシガエルの2種であり、最も多く生息しているのはウシガエルである。この種は外来種であり池沼に生息する魚や水鳥のヒナまでを捕食し、地域の在来種が減少し生態系を乱す原因の一つとなっている。

カメ類はイシガメ・クサガメ(図1-47)・スッポン・ミシシッピーアカミミガメの4種が生息しており、最も多く見られるのはミシシッピーアカミミガメである。

この種はペットとして輸入されたものが放置され、日本中に広がったものである。また、このカメは<sup>どうも</sup>獐猛であるため、在来のイシガメ、クサガメの生息および繁殖を脅かしている。陸地部分にはトカゲの仲間であるカナヘビとアオダイショウ・シマヘビ・マムシの3種類のヘビ類が確認されている。



図1-47.クサガメ  
写真：清邦彦氏

#### 1.11.5 魚類

魚類は、かつて浅畑沼があった時代から、水田へと土地改良が進められ、沼が消失したことにより一度その姿を消している。

しかし、麻機遊水地の整備により新たに池沼部が確保されたことにより、レッドデータブックに記載されているトウヨシノボリ池沼型(県版RDB:N-II)、在来種のもつご(図1-48)、ゲンゴロウブナ、ミソレヌマエビなどが生息するようになった。その他には、外来種のおオクチバス、ブルーギル、カムルチー、タイリクバラタナゴも生息している。



図1-48.もつご  
写真：板井隆彦氏

また、現在治水整備が進められている第1工区には農業水路が流れており、その水路にはもつご、オイカワ、ドジョウなどの魚類や、マシジミ、ヒメタニシなどが生息している。

### 1.11.6 昆虫類

麻機遊水地には、池沼、草地、ヤナギ林など多様な環境があり植物の種類も多いことから、昆虫にとって良好な環境となっている。

麻機遊水地の池沼部は、ヨシ、マコモなどの高茎植物、ヒシなどの浮葉植物、岸辺の低茎植物が生育する湿地であるため、トンボ類やタイコウチなどの水生昆虫の生息地となっている。その中でも、ヒシなどの浮揚植物が生育する良好な水辺環境に生息するチョウトンボ（図 1-49）は、以前は鯨ヶ池に多く生息していたが、近年ではこの麻機遊水地で急増している。

また、明るい草地部分では、様々な花が咲くため、チョウ、ハチ、アブなどが集まり、アカメヤナギなどのヤナギ林には、ヤナギの葉や樹液を採餌するコムラサキ（図 1-50）やその幼虫をはじめ、ゴマダラチョウ、カナブン類、クワガタムシ類などが集まっている。

麻機遊水地では特にトンボ類が多く、イトトンボ、ヤンマ、アカトンボ類などこれまでに 45 種類が記録されている。トンボ類以外では、チョウ類が多く 40 種記録されている。その他にもバッタ、テントウムシ、セミ、また、水中ではヒメミズカマキリやガムシ類などの水生昆虫も数多く記録されている。



図 1-49.チョウトンボ  
写真：伴野正志氏



図 1-50.コムラサキ  
写真：伴野正志氏